



小島 智恵
議員
(拓政会)

| ふるさと寄附の実績 | | |
|-----------|-------------|---------------------|
| 年度 | 件数 | 寄附金 |
| H20 | 16 | 185万円 |
| H21 | 21 | 367万5千円 |
| H22 | 21 | 259万5千円 |
| H23 | 27 | 379万1千円 |
| H24 | 38 | 509万5千円 |
| H25 | 9 | 77万円 |
| 合計 | 132 (74) | 1777万6千円 (839万円) |

※ () 内は町外からの寄附の数字で内数。H25は11月末現在。

問 平成20年9月幕別町ふるさと寄附条例を制定。寄附された方にはお礼状を送付しているが、最近は地元特産品を贈呈する自治体が増えている。上士幌町では特産品が好評で、申請件数が急増。PR効果や町内経済活性化、税収増につながると思い、以下伺う。

答 (1)寄附の実績。
(2)周知方法。
(3)実施された事業、予定の事業。
(4)寄附者に町内の特産品等を贈呈する取り組みは。

町長 (1)実績は次表のとおりである。

(2)ホームページによる周知や、広報紙におけるお礼の掲載やふるさと寄附の実績、運用状況を掲載するなどしている。

(3)平成21年度に幕別幼稚園への学校給食提供事業に20万円を直接充当した経過があり、今後は、パークゴルフ場周辺の案内看板の設置事業を新年度に予定している。

(4)特産品贈呈のメリットとしては、ふるさと寄附金自体の増加が期待できること、特産品の提供を通して自治体のPR効果や地域への経済波及効果などが期待できるが、しかし一方では、特産品の豪華さの競い合いが過熱し、その自治体に思いを寄せる寄附者の意向や制



まちの特産品 (和稔じよ、ゆり根)

問 ふるさと寄附における特産品等の贈呈を

答 寄附者の心情等も考慮しながら、他市町村の事例などを研究していく

問 PCB使用の蛍光灯は確実に撤去されているか

答 全施設を調査確認済みであり、使用している施設はない

度本来の趣旨から外れてしまうこと、行政サービスを受ける住民が税を負担するという受益者負担の原則の例外を助長することになり、税制度の根幹を逸脱することへの懸念がある。

問 (1)道内中学校で蛍光灯用コンデンサーが破裂し、生徒にPCBが飛散。PCBは健康や環境へ有害であり、町内の教育施設、公共施設で撤去・処理されているか伺う。

(2)岐阜県小中学校で給食のパン約100個にハエが混入し、ハエを取り除いて食べるよう指導した。道内小学校では調理器具の針金が給食に混入。全国的にこの時期ノロウイルスが流行。以下伺う。

①異物混入の事例、対応。
②衛生管理体制。

教育長 (1)平成12年に一斉調査を実施し、同年度中に全ての取り換え工事を終えており、本年度中に大部分の廃棄が完了見込みである。

(2)①過去3年間の事例では虫の混入が、各年度1件ずつあった。危機管理マニュアルに基づき対応し、製造業者に衛生管理を指導した。

②衛生管理責任者が作業工程表により衛生的かつ迅速に作業が進むよう指示しており、献立の部門ごとに2名以上の調理員による点検・確認を行い万全を期している。

再質問 (1)町内に温泉施設4カ所あり、道東道開通し、高規格道路の開通も控えており、観光振興として寄附者に温泉券等を贈呈する考えは。

(2)①給食のマニュアル通りで対応を誤るケースもあると思うが。
②調理員欠勤の職員体制は。

答 (1)他町村の事例を見ながら、検討していきたい。

(2)①いろいろなケースがあり、単にマニュアル通りではなく、実態を見た中で、子どもにとって危険が及ぶのか否か、あるいは衛生的かどうかを判断して決定したい。

②任用している18人中、常時調理作業に従事する数は約16人であり、残り2人を充てることで対応する。